

第 4 課

ヨハネの福音書 第4章

この課であなたが学ぶことは……

イエスとサマリヤの女
役人の息子をいやすイエス

イエスとサマリヤの女

ヨハネの福音書4：1～42を読んで下さい。

イスラエルの多くの人々は、サマリヤ人を見下げていましたが、イエスはすべての人を愛しておられました。金持ちも、貧しい人も同じように愛されたのです。

サマリヤの女はニコデモとは非常に違っていました。ニコデモは正しい人物でしたが、永遠のいのちを得るためにはイエスを信じなければなりません。このサマリヤの女は、不道德な女性でした。



イエスも彼女の悪い生活を知っておられ、彼女を救いたく願ってられました。ニコデモと同じようにイエスを信じることによって女も救われるのです。イエスは彼女の必要としているもの、すなわち霊の渇きをいやすいのちの水を与えてあげようと言われました。「いのち」という言葉は、ヨハネの福音書中36回も使われています。私たちはイエスに「いのちがあった」（ヨハネ1：4）ことを学ばせられました。イエスを信じる者は新しく生まれ、永遠のいのちを持っていること（ヨハネ3：5、15、16、36）、そしてだれもイエスを受け入れる者はいのちの水が与えられることを（ヨハネ4：14）学びました。



サマリヤの女は、自分の国の礼拝の習慣について話すと、イエスは場所や習慣は重要なことではなく、礼拝において最

も大切なことは、神は霊であり、人は神を真の神として礼拝する
きであると教えられました。

教会員であることや、宗教的習慣だけでは神を喜ばすことはで
ません。霊とまことによって行なわれる礼拝でなければ神は満足
れないのです。まことの礼拝とは、聖書の教えているような真実
心と、御霊の導きに従ったものでなければなりません。

サマリヤの女は、イエスが自分の生活のすべてを知っておられ
るので、イエスが普通の人間でないことを悟りました。そしてイエ
こそ神が世に遣わすと約束された救い主であることを示され、彼
はイエスを信じたのです。彼女は急いで自分の町に帰り、救い主
メシヤが自分たちの町に来られたと知らせに行くと、人々はみな
エスの所に集って来ました。

イエスは彼らと共に二日間過ごし、救いについて教えられました。
彼らはサマリヤの女に「私たちは、あなたが話したことによって
じているのではありません。自分で聞いて、この方が本当に世の
い主だと知ったからです。」と言いました。

私たちが個人的にイエスに出会い、信じる必要があります。人
は女を通してイエスについて知りましたが、それだけでは十分で
りませんでした。もしかしたらあなたも両親や、牧師や友人から
エスを紹介されたかもしれませんが、しかし、単にイエスに関し
話しを聞く、または勉強するだけでは不十分なのです。祈りにお
てイエスと個人的に出会う必要があります、彼をあなたの救い主とし
信じる必要があるのです。



自習のために

- 1 ヨハネ4：24を暗誦して下さい。

- 2 イエスが教えた後、人々はイエスに何と言いましたか。
 - 1) 渴いている人々に水を飲ませる親切な人。
 - 2) 世の救い主。
 - 3) 人間についてすべてを知っている預言者。

- 3 神に受け入れられるために何をする必要がありますか。
 - 1) 救い主としてイエスを個人的に信じる。
 - 2) クリスマンを両親にもつ。
 - 3) 牧師や友人からイエスについて聞く。

役人の息子をいやすイエス

ヨハネの福音書4：43～54を読んで下さい。

あなたはだれかがいやされるようにイエスに願ったことがありますか。ある役人が、イエスに息子をいやしてくれるよう願い出ます、イエスは息子の所へは行かず、役人に向って息子はいやされる言いました。その役人はイエスの言葉を信じたのです。このようにイエスの持つておられるいやしの力を、今日もイエスが持つておられるという事実を知ることはすばらしいことです。私たちが祈り、イエスのみことばを信じる時、私たちはいやされるのです。



自習のために

- 4 イエスはどのようにして役人の息子をいやしましたか。
- 1) 薬をあげた。
 - 2) 魔術をもっていやした。
 - 3) 父親に息子がよくなると言い、彼がそれを信じた。

正 解

- 2 2) 世の救い主。
- 4 3) 父親に息子はよくなると言ひ彼がそれを信じた。
- 3 1) イエスを救い主として個人的に信じる。